

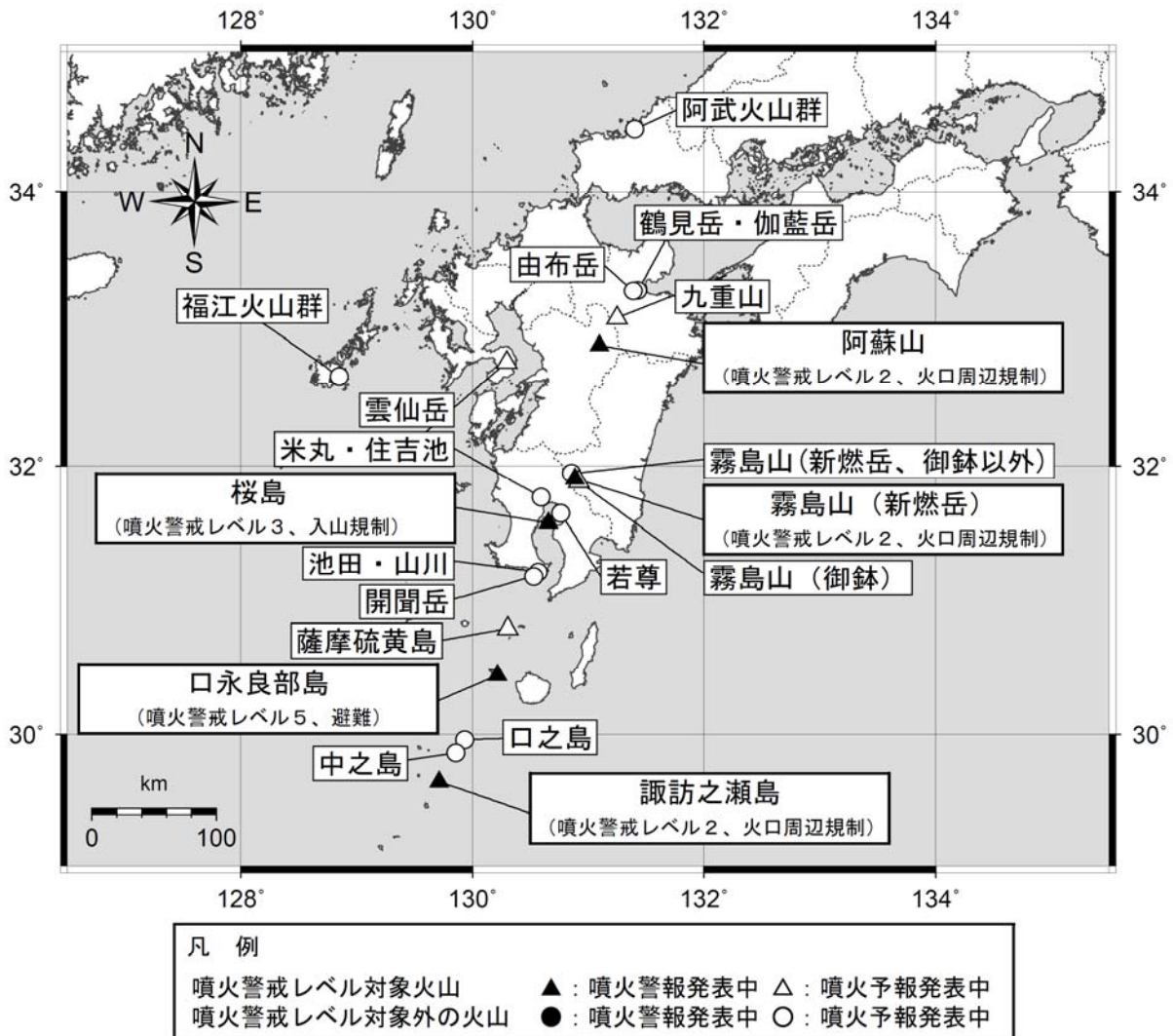
## 管内月間火山概況（平成27年8月）

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター

## 噴火警報及び噴火予報の発表状況（9月1日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル5（避難）	口永良部島※
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	桜島
	レベル2（火口周辺規制）	阿蘇山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、 福江火山群、霧島山（新燃岳、御鉢以外）、 米丸・住吉池、 <small>わかみこ</small> 池田・山川、開聞岳、 口之島、中之島

※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中です。



※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成27年9月分）は平成27年10月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、大分県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、屋久島町及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

## 各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

桜島では、8 月 15 日に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 4（避難準備）に引き上げました。9 月 1 日（期間外）に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 4（避難準備）から 3（入山規制）に引き下げました。

その他の火山では、予報警報事項に変更はありません。

### 鶴見岳・伽藍岳〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

### 九重山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、GNSS 連続観測によると、わずかに伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

### 阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

中岳第一火口では、8 日 12 時 14 分にごく小規模な噴火が発生しました。阿蘇山で噴火を確認したのは 2015 年 5 月 21 日以来です。

火山性微動の振幅は概ね小さな状態でしたが、26 日に一時的に大きくなりました。孤立型微動は概ね多い状態で経過しました。火山性地震は時々発生しました。

中岳第一火口では、活発な火山活動が続いていることから、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。火口周辺では強風時に小さな噴石が 1 km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石にも注意してください。

### 雲仙岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっており、今後の火山活動の推移に注意してください。

### 霧島山（新燃岳）〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は時々発生しました。

GNSS 連続観測によると、新燃岳周辺の一部の基線では、わずかに緩やかな伸びの傾向が認められます。また、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向が見られていましたが、2015 年 1 月頃から停滞しています。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には、泥石流や土石流に注意してください。

### 霧島山（御鉢）〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

### 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

さくらじま

**桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]** ← 8月15日に噴火警戒レベルを3（入山規制）から4（避難準備）に引上げ、9月1日（期間外）に噴火警戒レベル4（避難準備）から3（入山規制）に引下げ

桜島では、15日07時頃から南岳直下付近を震源とする火山性地震が多発し、また、桜島島内に設置している傾斜計及び伸縮計では山体膨張を示す急激な地殻変動が観測されました。このため、同日10時15分に噴火警報（居住地域）を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から4（避難準備）に引上げました。

その後、南岳直下付近で多発した火山性地震は16日以降急激に減少し、今年1月以降の噴火活動が継続していた時期と同程度になり、傾斜計や衛星による観測結果では、8月17日以降に地盤の隆起はみられていません。観測データの状況から、南岳の地下に貫入したマグマの浅部への上昇は停止し、深部からの新たなマグマの貫入も生じていないと考えられます。

また、8月19日以降、ごく小規模な噴火が発生していますが、この噴火は桜島でこれまでも観測されてきた噴火活動であると考えられます。

これらのことから、桜島は噴火警戒レベルを4に引き上げる以前の火山活動に戻っていると判断し、9月1日16時00分（期間外）に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）に引き下げました。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

さつまいおうじま

**薩摩硫黄島 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]**

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、硫黄岳山頂火口では噴煙活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

くちのえらぶじま

**口永良部島 [噴火警報（噴火警戒レベル5、避難）及び火山現象に関する海上警報]**

口永良部島の火山活動は活発な状態が継続しています。

新岳では、6月19日のごく小規模な噴火以降、噴火は観測されていませんが、火山性地震が時々多く発生しました。火山性微動は観測されていません。火山ガスはやや少ない状態で経過しています。

今後も、5月29日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

大きな噴石の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。

屋久島町の避難等の指示に従ってください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

新岳火口から半径2海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがありますので、噴火に警戒してください。

すわのせじま

**諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]**

御岳<sup>おたけ</sup>火口では、小規模な噴火が時々発生しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、予報事項に変更はありません。